

御茶ノ水「カンバス」で初のモレキュラー演劇公演——

《Oh! キャロル! 大久保一恵・田島千征のシアトリカル・サスペンス》

豊島重之 (モレキュラーシアター演出家)

出演/田島千征:『マウスト』公演プレビュー



昨年08年11月に都内月島のアーティストスペースにて『イルミオール・イルシオール』と題された演劇公演で一躍脚光を浴びたモレキュラーシアター(拠点八戸市・代表高沢利栄)が、今年09年も来たる11月21~23日、都内御茶ノ水の国際的なフリースペース「カンバス」で新作『マウスト=mouthed』公演を開催することになった。

昨年に引き続き日本芸術文化振興基金の助成事業である。先日、そのプレビューに立ち会った感触をひと口で言うと「サイバーパンク=cyberpunk (true)」。SF映画やクラブ音楽シーンでお馴染みの、サイバーは電脳的、パンクは「突き刺し・一撃・炸裂・急所」を意味する。

■
昨年の前作『イルイル』は、三方の壁面を「四角い光面=ブラージュ」が次々と振幅しつつ、俳優

が光の中に現れては消えていくサスペンスフルな演劇であった。それが今作『マウスト』では、そのブラージュが床面に、つまり舞台面に横一列に配置されており、テクストの進行に応じて俳優が順次そこに、「光の口」の上に立つ。底なしの口に立つ身体、永遠に落下し続ける身体。ここで誰もが想起するのは、ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の冒頭、ウサギの穴に迷い込んで突然、落下し続ける少女アリス的なタイムスリップだろう。ただし『マウスト』では、画家矢野静明氏による「モダンズム芸術論」を上演素材としており、私たちは映画『戦場のピアニスト』のごとき「戦時下の芸術家たちの生きざま」へと、さらには「歴史意識の古層」へとタイムスリップする。しかしキャロルのサスペンスということでは、大きな違いはないと考えていいだろう。

■
アリス的な「落下する身体」に扮するのは、モレキュラーの大久保一恵・田島千征・秋山容子・高沢利栄ほか。マダム・タッソンの蠟人形館さながら、びくとも動かぬ立像はまるで少女アリスの剥製である。それなのに「突き刺すような一撃」が観客をいっしょに襲うようにみえるから不思議だ。そこがサイバーパンク演劇の「炸裂する急所」なのかもしれない。少なくともそれはセリフを吐く口ではない。身体の一部としての口では

なく、全身が口と化した、落下する空洞と化した立像。そこから『マウスト』と題された。どんなふうのアリスが妖怪や怪物たちと闘ったのか。モレキュラーはそれに倣う。そして合言葉のように囁く。『キャロル!』と。

【モレキュラー演劇公演】

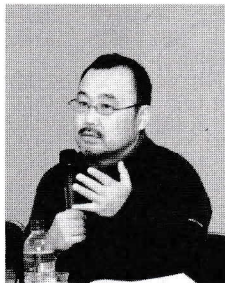
□日時/11/21(土)20:00、22日14:00、22日18:30、23日14:00 計4ステージ。

□会場/カンバス(JR・丸の内線 御茶ノ水駅より徒歩5分。本郷通りをこえてサッカー通りのすぐ右三軒目)

□主催・問合せ・事前申込み
(モレキュラー)

<http://sites.google.com/site/moleculartheatre/>

FAX:0178-45-9247



画家/矢野静明
『マウスト』公演テキスト執筆



出演/大久保一恵:『マウスト』公演プレビュー

Friday Amusement Negative Shop

FANS(822回~825回)(だべり場 2009.11)11月6/13/27日 19:30開始 11月7/14/21日 14:00開始

演劇空間

スペースベン

八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350
☎ 080-6025-0990

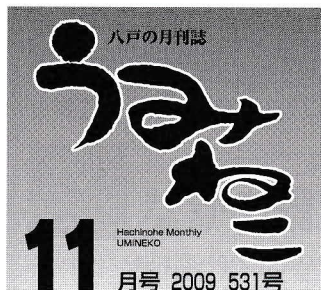
HP <http://spaceben.com/>Eメール owner@spaceben.com

※特別番組以外全て午後7時30分~。料金/一般400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

11月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ「感謝」

情けない中国旅行.....熊野悦郎
白い割烹着.....河村美知子
二月に届いた年賀状.....相坂秀成子
M先生へ.....田中悦治子
娘の物言い.....古館光寛
四つの手.....高橋寛



●今月のインタビュー

ハワイアンダンス講師

上井慎子さん(39歳)に聞く

読む楽しさ 読物満載

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社

八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
TEL・FAX 0178-44-6636